

第18回 「平和を求めて」図書館資料展

テーマ：空襲と暮らし

第18回を迎える「平和を求めて」図書館資料展は、「空襲と暮らし」をテーマに、平成21年8月1日（土）から8月30日（日）まで、中央図書館2階展示コーナーで開催されました。パネルやパンフレットに加え、図書館資料や市民から提供された資料をもとにご紹介しました。また、初日には、「戦争体験を語る会」を開催し、実際に空襲を体験された3名の方に体験談を語っていただきました。

多数のご来館ありがとうございました。

【開催概要】

豊橋空襲をはじめ、浜松・豊川海軍工廠の空襲の実態がどのようなものであったのか、当時の状況を伝える資料や写真をもとに分かりやすく紹介しました。

今回の平和展では、アメリカ公文書館蔵の『戦術作戦任務報告』を基に、日本への空襲が戦略的・科学的な根拠に基づいて行なわれたことなど、空襲の実態を明らかにしました。

多くの市民の生命・身体・財産を奪った「空襲」。「生きる」ために必死だった当時の人々の「暮らし」。戦後64年以上が経過し、戦争の記憶が薄れゆく中、平和の尊さを次代に語り継ぐため、この資料展が契機となれば幸いです。

【資料】

[表紙](#) [はじめに](#)

[戦争への道・日本空襲の実態](#)

[戦争と暮らし](#)

[空襲にそなえて](#)

[浜松空襲](#)

[豊橋空襲](#)

[豊川海軍工廠](#)

[日本被災地](#)

[戦争で失った父母と家](#)

[参考資料](#)

【戦争体験を語る会】



◆「海没6回・最後はマニラ戦」

語る人：上田 毅八郎氏

◆「ソ連侵攻・生き地獄の日々」

語る人：中野 春一氏

◆「母と兄を凍土に埋めて・北朝鮮からの生還」

語る人：久木村 久氏